



■本丸で確認された柱穴の跡

Report
勝山城の調査を終えて

—本丸調査編—

先月は本丸南西の調査について報告しましたが、今月はいよいよ本丸の中央部の調査について報告したいと思います。

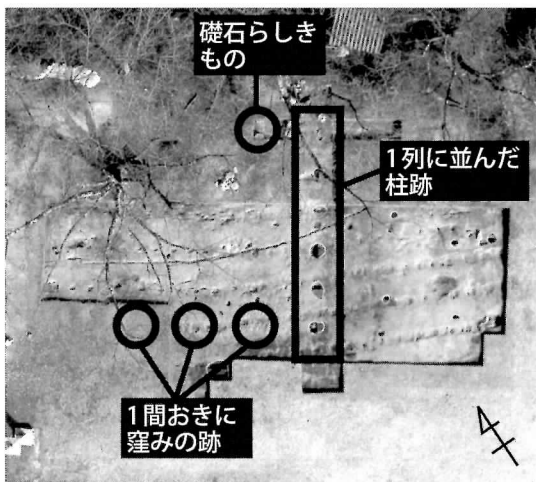
この地点は、事前の地中レーダー探査や、絵図面の調査により、建物が建っていた可能性が高いと考えられていました。発掘調査で

6基の柱穴周辺からは角釘や陶磁器の破片が多量に確認されています。このことから、この地点に何らかの建物が存在したことは間違いないと考えられます。6基の柱穴列の柱穴の規模が大きく、それに比べ西へ延びる窪みは浅く規模も小さいことから、6基の柱穴列を強固な側柱として築いたことが推測されます。また、この場所では明治以降と考えられる耕作の跡が確認されており、西へ延びる窪みも耕作の跡によって不明瞭であり、どこまで延びているかは明らかでなく、建物の性格

は、花崗岩の地山で幅約60cm、深さ約90cmの柱穴が南北方向に6基、1間(180cm)間隔で1列確認されました。さらに、南端の柱穴から西へ1間間隔で地面に3カ所窪みが確認でき、北端の柱穴から1間西には礎石と思わしき扁平な石が確認されています。これらは花崗岩の岩場に直接柱を据えた跡か、礎石を抜き取った跡ではないかと考えられています。

MUSEUM
ミュージアム都留
&
増田誠美術館

開館時間 午前9時～午後5時
※増田誠美術館は午後4時30分まで
観覧料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
※()内は、20名以上の団体料金です。
休館日 月曜日、第3火曜日
祝日の翌日
問合先 ミュージアム都留
☎45-8008



■本丸の発掘調査上空写真



■幕末の灯明皿

や規模も明確ではありません。出土遺物は角釘、陶磁器のほか、寛永通宝などの銭貨と同時に、幕末期(19世紀中頃)の灯明皿が多量に確認されています。この灯明皿の出土から、幕末期には人が何らかの目的を持って、夜間に勝山城山頂に登頂していたことが推測されます。

増田誠美術館企画展
『ムッシュ増田の生きた時代の人々』

増田画伯が愛した街パリ。パリに暮らす人々の生活の1コマを描いた油彩画やカフェでお茶を飲みながら描いたスケッチを展示します。生き生きと暮らす人々の姿をお楽しみください。

会期：9月26日(日)まで
開館時間：9時～16時30分
会場：増田誠美術館(ふるさと会館2階)
休館日：月曜日、第3火曜日、祝日の翌日
問合先：ミュージアム都留



『猫と青い帽子の少女』
油彩画8号(1973年)

作品介绍

次期展示のご案内
10月2日(土)から、増田画伯とゆかりのあった作家の作品を展示します。

「第19回増田誠大賞公募展」
作品募集中!
作品搬入日時
9月3日(金)～5日(日)10時～15時
詳細は、8月号をご覧ください。